

「マンボウ」といえば、ある世代は北杜夫「どくとるマンボウ航海記」を連想、「航海記」は「ドリトル先生航海記」。「まん延防止等重点措置」の“後悔”は3月24日のゼミは、マルクス『資本論』第3巻35章「貴金属と為替相場」の第2節「為替相場」を高田の報告で行いました。貨幣金属の国際的バロメーターは為替相場である。イングランド銀行は金流出の防衛策として利子率引上げを行い、為替相場に影響する。銀行学派は貴金属輸出と資本一般の輸出の為替相場への影響を同一視している。資本投下は商業取引でなく還流も期待しない。普通でない輸入品、植民地からの貢納、等価を支払わない無償輸入品は為替相場に影響せず、インドに対する資本の利子・配当、官吏の報酬などがある。カトリックは重金主義、プロテスタントは信用主義であるが、信用主義は重金主義から解放されず。この節では議会証言が多く、その背景・論点が分かりづらい。問題にしているのは商品取引と資本取引が為替相場・金準備の問題で影響を区別していないこと、外国との関係での植民地をもつイギリスの特殊性が論点となる。討論では、この章でJ.S.ミルを取り上げ批判的に書き、マルクスは折衷派としているが、ミルは第1インターに関わっている。ここでの主題は「金」だが、日本では石見銀山などがあり銀が流通していた。現在の為替のベースは本当に金なのか、金相場とドル相場の関係は、仮想通貨も。石油価格は果たして金価格と連動しているのだろうか。労働価値説が問題だ。出席は、高島さん、高橋さん、川口さん、服部さん、斎藤さんと高田の6名でした。付記：参加者から報告者が同じ35章を前回の2006年5月24日に報告しているとの指摘がありました。15年も前のことをすっかり忘れていましたが、その時のレジュメを見せてもらい、今回の方が少しマシなレジュメになったかと、長い年月に思い返しました。

\* 4月のゼミを中止・延期します。昨年12月から2月までの3カ月の長いゼミ休み後、3月に入ってやっとゼミを再開できました。なんとそれから1か月後に、大阪など各都市で「まん延防止等重点措置」が適用され、大阪ではより多くの感染者が出て、再びゼミを休むこととなりました。「医療崩壊」予想に自粛とワクチンに期待するしかないのでしょうか。

\* 前号たよりの日程の訂正：3月25日→3月24日

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

\* 4月14日ゼミ、4月28日ゼミは、中止し次回に延期します

5月12日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第3章・第4章 報告松村さん

5月26日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』第3巻36章 資本主義以前[の状態] 報告高橋さん

6月9日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第5章・第6章 報告者未定

その後 6/9, 6/23, 7/14, 7/28, 8月?, 9/8, 9/22 (アイクルの部屋)